

二〇一九年三月二九日

春禽の瑠璃一擲す池面かな
喧嘩する相手もをらず山笑ふ
老い母の杖ともなりて花堤
浮棧橋ゆらし出発花見船

せいじ
はく子
智恵子
菜々

二〇一九年三月二八日

新しくなりし木道菖蒲の芽
麗らかや砂場にならぶ泥団子
唐風の屋根の宝珠に風光る

さつき
なつき
菜々

二〇一九年三月二七日

水温む水上バスは満席に
花行脚船上人に手を振りて
山里の風に生まれて初蝶来
総玻璃のビル抽んでて風光る
親指の爪真つ黒や露をむく

満天
菜々
愛正
満天
やよい

二〇一九年三月二六日

花の冷え美術館へとエスケープ

さつき

二〇一九年三月二五日

花便り膝の痛みも消えなんと
正社員募集と貼りて窓日永
降り立てば終着駅は花菜中

よう子
明日香
宏虎

二〇一九年三月二四日

無人駅待合室に紙雛
授乳の娘一口つまむ彼岸餅
二〇一九年三月二三日
大空へ手燭点すと白木蓮
大杉の切り株に座し初音聞く
散策の森の道行き百千鳥

さつき
なつき
やよい
三刀
たか子

毎日句会みのる選・二〇一九年三月二日